

日高地域における林業の活性化に向けた取り組みについて

～地域課題である搬出間伐（列状）の普及推進～

日高北部森林管理署

【現状・課題】

地域の一般民有林では、搬出間伐（列状）が進んでいない現状があり、森林所有者が搬出間伐（列状）の必要性和メリットを理解し定着していくことが課題となっている。このため、搬出間伐（列状）が定着に向けて、森林所有者の列状間伐に対する風倒等の不安を少しでも払拭することが必要となっている。

1. 背景と目的



【これまでの取組】

日高管内の民有林の現状を認識するため、管内5森林組合に民有林の現状などに関する聞き取りを実施して分析した。その結果、小面積の森林所有者が多く事業の集約が大変であること、列状間伐は風害や画一的な施業で森林への悪影響が考えられること、路網作設や軽種馬育成牧場周辺の搬出に問題があるという声を聞くことができた。

【取組結果】

① 林分調査を実施

搬出間伐（列状）推進のため、日高町民有林のトドマツ人工林（6.16ha）の現況把握を行った。日高振興局森林室平取事務所、沙流川森林組合と協力して簡易な林分調査を実施した。その結果について「森林の健康診断書」として民有林所有者に対し林分内容の説明をすると共に、伐採搬出想定図を作成して、列状間伐の実施にあたっての土場作設位置や搬出路の付け方等や伐採方向を提案することで、搬出間伐（列状）を実施するにあたっての方向性を示すことができた。

② ドローン活用による説明

林分内容をより広域的に把握するため、ドローンを活用した現況調査を実施することとし、民有林所有者に上空からリアルタイムで確認してもらった。また、所有林を上空から撮影し3D画像を作成して、立体的で分かりやすい説明を民有林所有者にすることができた。

③ 国有林の列状間伐勉強会

国有林において過去に列状間伐を実施した箇所及び今年度実行中の箇所において、森林所有者、日高振興局森林室平取事務所、沙流川森林組合、日高北部署職員による勉強会を開催することで、効率的で低コストで収益性が良いこと、伐採の際に安全性も確保できるなどのメリットを理解していただいた。また、搬出間伐を実施することで、概算収益が約21万円の赤字から約125万円の黒字が見込まれるなどの説明をすることで、森林所有者に理解を深めることができた。メリットなどについて理解を深めた。

【取り組みの成果】

森林所有者が平成30年に搬出間伐（列状）を実行することとなった。
また、周辺5人の森林所有者との集約化についても、前向きに検討することとなった。

【今後の目標】

森林所有者等に対して見える形で、搬出間伐（列状）の有利性を示す等の取り組みを通じて、地域の低コスト施業の方法の確立と森林資源の有効活用を目指す。

